

# 障がいのある幼児児童生徒の学びを支えるICTの活用（実践編）

障がいのある幼児児童生徒の学びにおいてICTを活用する際は、幼児児童生徒の障がいの状態や認知の特性等に応じた適切なICT機器を選択することが重要です。実践編における各事例では、ICT機器の特徴や効果、活用におけるポイントを紹介しています。

## タブレット端末を使った集団における主体的な学びの実現

1人1台のICT機器を用いた学習が展開される中、学校で学ぶことの意義の一つである「集団学習」にスポットをあて、その可能性や効果の検証をしました。具体的には、知的障がいのある児童生徒の様々な特性等を考慮し、タブレット端末を用いた集団学習の可能性や、どのような使用方法が、より子どもたちの実態に合った学習形態になるのかを検証した取り組みです。



アイデアの出し合い

作成した問題の共有

生徒自身による問題作成・解答・解説

1

注目できる教材

2

映像と音声でより効果的に

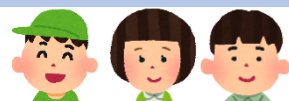
3

表現を即時に共有

実際のエピソードより ～集団学習でタブレット端末を効果的に活用することとは～



### いつもの学習がもっと楽しく魅力的に!



（事例1小学部Aさん）絵本の内容と結び付けた果物の模型を使って、言語を習得することをねらいとしています。集団での授業への参加や集中力の持続、一定時間の注視が課題です。家庭を含め、これまでタブレット端末に触れる経験はほとんどありませんでした。

ICT活用



はじめは関心を示さず、タブレット端末を投げようとすることもありましたが、でも、画面をタッチすると、リンゴがシャリシャリと音を立てながら食べられ、減っていくことがわかると、画面を注視し、関心を示すようになりました。次第に自分から画面に触れるようになり、人さし指をたててタッチすることもできるようになりました。

（事例2高等部Bさん）「数学せえへんから!!」数学のプリントを見ると、「俺、国語しかないから」と、数学のプリントを横に置いてしまうBさん。取り組みやすいようにヒントを伝えても、数問解くと、すぐにプリントを横に置いてしまいます。小さな数量を数字によって抽象的に扱うことや足し算の概念など、少しずつでも数学を好きになってほしいと思っていました。

ICT活用



タブレット端末がすぐに正解をフィードバックしてくれるので、解きやすい問題から、少し難しい問題まで、どんどん解いていくBさん! 共同編集アプリで友だちと意見交換をし、それを基に文章問題を作成しました。自分が作った問題を解説しながら答え合わせをした後、「俺、数学の先生になろうかな?」と、数学への苦手意識が随分と軽減したようでした。



◆ 活動名  
◆ 授業計画(例)

くだものさん(こくご・さんすう)

時	主な学習活動
1	○絵本「くだものさん」
2 } 9	○くだものをとってかごにいれよう。 ○くだものなまえでてをたたこう。 ○りんごを食べよう。

ICT活用のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タブレット端末の画面に触れると画面が動き音声が出るという、行動に対するフィードバックが即時にできる。</li> <li>・ 大型モニターとタブレット端末を接続することで、全員が同じ教材を共有できる。</li> </ul>

◆ 本時の展開(例) (2/9時)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
50分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タブレット端末の画面をタッチすると変化が起こることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手を添えて、画面に触るように促す。音声を入れることで画面に注視するようにする。</li> </ul>

◆ 活動名  
◆ 授業計画(例)

足し算の文章問題を作ろう(国数)

時	主な学習活動
1 } 4	○数カルタ(具体物と数字との即時マッチングトレーニング、5のまとまり) ○1~5の数字で25マス計算(問題作成、解答、答え合わせ)
5 } 9	○生活の中にある足し算のアイデア出し ○文章問題作成、解答、答え合わせ

ICT活用のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大型モニターと接続→共同編集アプリで各自の意見を共有</li> <li>・ 1人1台活用→他の生徒の前で発言することが苦手でも意見を出しやすく、各自の学習速度で取り組める。</li> <li>・ 具体物との組み合わせ→楽しい</li> <li>・ 学びの記録を残しやすい。</li> </ul>

◆ 本時の展開(例) (7/9時)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
50分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までのアイデア集を基に、アプリで「足し算の文章問題」を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプリを使用する前に一斉に操作を確認する。</li> <li>・ 各自が問題を作成する中で、答えを自分で導き出せるか、解説できるか、問題文が間違っていないかの確認を促す。</li> </ul>

活用にあたっての留意点

【機器について】

- ・ 画面操作が難しい児童生徒には、穴をあけたプラ板などを使用し、触れる場所を限定的にするなどの工夫をする。
- ・ 最初は、大型モニターなどを使用し、教材に対する興味関心を育むことから始める。
- ・ 共同編集アプリは、入力内容が表示されるまでに時間差が生じる場合があるため、環境設定の確認が重要である。また、一斉に入力するため、他の生徒の入力を削除しないように、使用方法や記入場所等を工夫する必要がある。

【子どもの学びについて】

- ・ いつも見ている絵本が、タブレット端末の画面の中で動いたり、音を出したりすることで、子どもの期待感を引き出すことに効果的である。
- ・ 言葉での発言が苦手であっても、タブレット端末を用いた自己表現が可能である。
- ・ 個々の意見を集団で共有することができ、一人ひとりの学びを集団で深めることもできる。